

神奈川県立西湘高等学校

令和6年4月5日（金） 第68回入学式

今年はいつになく桜の開花が遅く、入学式を待っていたかのように、今、桜の花が咲き誇っています。

この良き日に、本日、神奈川県立西湘高等学校の第68回目の入学式を執り行うことができました。

ただいま316名の皆さんに入学を許可いたしました。新入生の皆さん、そして保護者の皆様、改めまして、ご入学おめでとうございます。私たち、教職員一同、皆さんのご入学を、心より歓迎いたします。本日、この入学式を執り行うにあたりまして、ご多忙中にもかかわらず、ご臨席いただきましたPTA会長 菅原秀武様、同窓会会長 古川達高様、多数のご来賓の皆様、保護者の皆様、高いところからではございますが、心よりお礼申し上げます。

さて、新入生の皆さん。皆さんは9年間の義務教育を終え、大人への第一歩を踏み出しました。高等学校という学びの場は、皆さんにとって、未知の世界であり、不安を感じるころなのかもしれません。

昨年の5月に新型コロナウイルスが、5類感染症に移行し、西湘高校でもコロナ前の「日常」が戻ってきました。体育祭、文化祭、修学旅行などの学校行事。様々な部活動。そしてもちろん自分の将来につながる勉強。皆さんが思い描いている高校生活が、この西湘高校にはあります。皆さんには、思う存分、授業や学校行事、部活動に励んでもらいたいと思います。

しかし、この「日常」はコロナ前とは違う「新たな日常」であると考えます。コロナ禍を経て、社会や経済は大きく変わりました。人々の考え方や、行動様式も変化しています。さらに、ウクライナやイスラエルで戦争が起こり、世界の情勢も大きく変わっています。この「新たな日常」の世界を牽引していくのは、皆さんのような若い世代です。皆さんには、変化に対応できるような柔軟な考え方を、この西湘高校で育んでもらいたいと思います。

西湘高校では、プログラミング教育の取組を活かし、論理的思考力、協働して課題を解決する能力を育成しています。皆さんは、いろいろな考え方や、立場の人がいることを理解できる人であると思います。これからは、多様性を認め合うことで、新たな価値を創造し、豊かな人間性が育まれる時代になります。

今後、様々な分野で、リーダーとして活躍していく皆さんですから、この西湘高校が、お互いに、他人を認め合い、誰にとっても居心地の良い場となるよう、一人ひとりが心がけて、いきましょう。

新入生の皆さんに覚えてもらいたい言葉があります。

『西湘プライド』です。これは同窓会が使用している言葉です。西湘高校で高校生活を送った者として、「自信と誇りを持っていこう」という意味だと考えます。西湘高校は、間もなく創立 70 年を迎えます。この間、2 万 4 千人をこえる卒業生を世に送り出してきました。卒業生は、この地域だけにとどまらず、国内外の政治、経済、文化、スポーツとあらゆる場面で活躍しています。今日から皆さんもそんな西湘高校の一員です。西湘生として、自信と誇りをもってこれからの 3 年間で過ごしてください。

私は、新入生オリエンテーションの時に皆さんに、このようなお話をしました。

『二兎追うものは一兎をも得ず』ということわざがありますが、皆さんにはこの西湘高校で『二兎を追い二兎を得る』そのような生活をしてほしいと思います」と。

時間を惜しんで、がむしゃらに頑張ることができるのは、高校時代の特権だと思います。そして、その頑張りは、10 年後、20 年後の皆さんの人生の糧となります。

西湘高校に入学した皆さんには、「二兎を追い二兎を得る」そのような力が備わっています。ぜひ自分を過小評価せず、自信と誇りをもって、その力を発揮してください。期待しています。

これからの 3 年間、皆さんが、精一杯活躍する姿を見ることを、楽しみにしています。以上をもって校長のことばといたします。

ご入学 おめでとうございます。